作り上げた製品が動き、空を飛ぶ幼い頃からの憧れが実現

これまでは男性の職場というイメージが強かった製造業ですが、近年は女性エンジニアの活躍も増えてきました。
ものづくりの現場で活躍する理系女性に、仕事内容や職場環境など気になる点をインタビューするこの特集。
今回は、三菱重工で防衛省向け航空機の製造を手掛けている辻山朱莉さんにお話を伺ってきました！

辻山朱莉（つじやま・あかり）

三菱重工業株式会社
2016年入社
防衛・宇宙ドメイン 航空機・飛昇体事業部
航空機製造部 F-2課 艤装係
工学研究科 航空宇宙工学専攻 修了
趣味：旅行、スポーツ

Q1 ものづくりに関心を持ったきっかけは？

A. 小学生の時に〝しし座流星群〟を見て、それをきっかけに宇宙に興味を持ちました。そこからロケットや飛行機にも興味を持つようになり、初めて飛行機に乗って富士山を目にした時の感動はいまでも覚えています。将来は航空機や宇宙に関わる仕事をしたいと考え、大学では航空宇宙工学を専攻しました。学生時代はロケット製作・打上げサークルを立ち上げ、実際に2メートル位のロケットを設計から製造まで一通り手掛けていました。

三菱重工業株式会社

生活に密着したエアコンから発電プラントなどの社会インフラ、LNG輸送船・航空機等の輸送機器、大型ロケットなどの宇宙機器に至るまで、世界中の人々の生活を支え、産業活動の基盤となる様々な製品を提供しています。陸・海・空から宇宙まで広がる壮大なビジネスフィールド、そして世界に誇る最先端の技術力と確かなものづくりで世界を変えるビッグビジネスを展開しています。

Q2 三菱重工に入社した決め手は？

A. 就職活動では、航空宇宙分野に関われる企業を中心に検討しました。三菱重工のインターンシップにも参加したのですが、その時に出会った社員の方がすごく楽しそうに働いていたんです。仕事に誇りを持ち、目を輝かせて話していた姿は印象的で、私も「こんな風に働きたい！」と思いました。

Q3 仕事内容について教えてください！

A. 私の所属部門は防衛省向け航空機を製造しています。その中でもヘリコプター新規製造プロジェクトにおいて、機体に様々な装備を備え付けていく艤装（ぎそう）という工程を技術的にサポートすることが私の担当です。特に、問題が発生した際に図面と実機を見比べるなどして、改善案を検討することが重要な仕事です。一からパーツを組み合わせ、一つの製品が出来上がる。それが空を飛ぶというのは純粋に感動しますね。幼い頃から憧れていた航空機やヘリコプターを目の前にして働けるのは、すごく楽しいですし、私達の部門が製造したヘリコプターが災害救助で活躍した、という話を聞いたときは部門全体の士気が上がります。

Q4 どんなスキルや知識が必要でしょうか？

A. 大学の研究がそのまま活かせるわけではないのですが、材料、電気、機械構造、加工手法といった基礎的な知識は役立ちます。製品についての知識や製造技術ももちろん必要ですが、製造プロセスには非常に多くの人が関わってくるので、〝プロジェクトをまとめる力〟、〝人を巻き込む力〟も非常に大切だと感じています。今後予定されている新機種の製造にも携わりたいですし、将来的には自分が中心となってプロジェクトをまとめられるような存在になりたいですね。

Q5 職場はどんな雰囲気ですか？

A. 仕事でわからないことがあれば先輩に気軽に質問できますし、丁寧に答えてくれます。まだ入社1年目ですが想像以上に仕事を任せてもらえ、若手でも活躍できる会社だと感じています。

当社は堅い会社だと思われがちですが、先輩たちとも言いたいことを言い合える和気あいあいとした職場です。休日にはキャンプやＢＢＱに行くなど、同期とも仲が良いです。社内の交流イベントも定期的に行われており、先日は球技大会が開催されました。

Q6 女性の働く環境としてはいかがですか？

A. 忙しい時期もありますが、水曜と金曜は定時退社日と決められているなど、メリハリをつけて働けています。仕事と家庭の両立を支援する制度も充実しているので、活躍されているワーキングマザーも増えているようです。

Q7 これから社会に出る理系女子にメッセージをお願いします！

A. ものづくりの現場でも女性だからといって、男性との差を感じることはありません。上司も同僚もフラットに接してくれますし、やりたいことを主張すれば挑戦するチャンスももらえます。「ものづくりは男性の仕事」というイメージがあるかもしれませんが、「決してそんなことはない」と多くの方に知ってほしいです！